

# 兵庫県立芸術文化センター

## ■阪神・淡路大震災からの「心の復興・文化の復興」のシンボル（2005年10月開館）

- 芸術文化活動により、県民の心を元気に、生活に潤いを、人生を豊かにすることを目指す。
- 「共に立ち（建ち）上がる共感（われらが劇場）」に支えられ、震災後10年で開館。

## ■「みんなのこころの広場」～自ら創造し、県民とともに創造する、パブリックシター～

- 芸術性豊かなものから親近感に富むものまで「幅広いニーズ」に応える公演を継続し、愛され、まちの賑わいの原動力となる劇場を目指す。

## ■佐渡裕芸術監督（2002年就任）のもと、多彩な舞台芸術を展開する芸術文化の発信拠点（年間主催事業300公演を超え、平均入場率約90%）

- 佐渡裕芸術監督プロデュース事業
- 舞台芸術公演主催事業
- 専属管弦楽団事業
- スーパーキッズ・オーケストラ事業
- 普及事業
- 地域連携・にぎわいづくり
- 貸館事業

## ■コンサート、オペラ、バレエなどの公演に適した大ホールを有する（その他施設は次頁） （2,001席、オケピット客席転換時2,141席）



コンサートホール形式



劇場形式

## ■シンボルマーク 「復興」「躍動」「創造」 をテーマデザインとする



## ■中ホール

- 演劇、ミュージカル、古典芸能などに適した劇場（800席）



## ■リハーサル室・スタジオ

- 創作のためのリハーサル室、舞台芸術系（331㎡）、音楽系（88㎡）の2種、スタジオは防音設計で大小5つ。



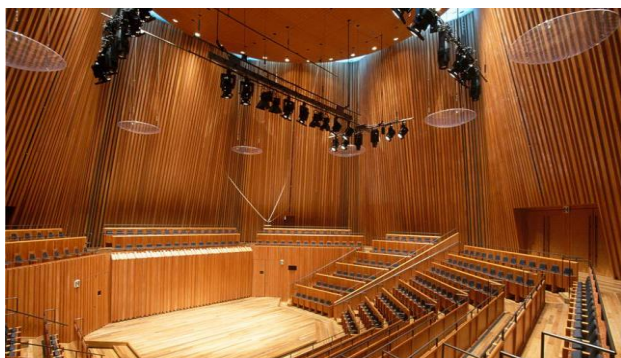
## ■共通ロビー（ピアッツア）と事業展示室（ポッケ）

- いつでもだれでも入るが入ることができ、イベントも行われるピアッツア、自主事業関連展示を行うポッケ。



## ■小ホール

- リサイタル、室内楽などに適した音楽ホール（417席）



## ■高松公園

- 隣接する公園は広場として、イベントやイルミネーション、市民のダンス活動の場など、様々に使われる。



## ■規模

- 延床面積 33,145㎡
- 建築面積 10,531㎡



# ① 「誰もが集い、交流し、新しい価値を創造する場」に参考となる事項

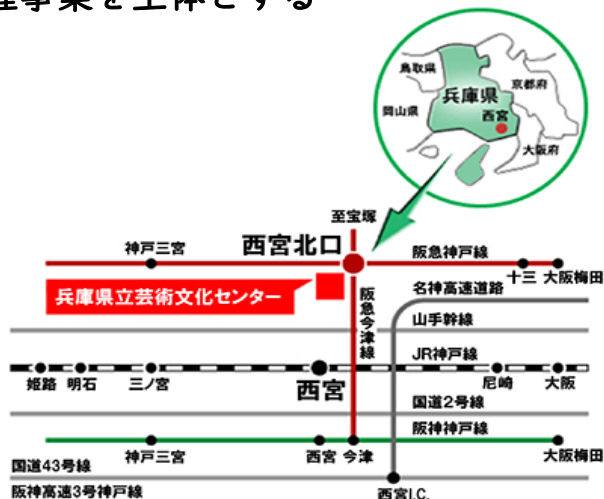
## 1. マイナスをプラスにする運営 ～日本一元気で賑わいのある劇場へ～

○ 人口約49万人の西宮市の阪急「西宮北口駅」隣接という業界からは否定された不利な立地(指摘された3重苦)

- ①大阪と神戸の中間の通過点で人が集まらない
- ②県庁所在地、政令指定都市でもなく集積がない
- ③興行会社、TV・新聞社も無く公演ニーズが低い(戦略)

○ 県民に、愛され、親しまれ、支え続けてもらえる劇場へ

- ①地域密着、県民・地元をターゲットに
- ②ニーズを発掘、初めての人を積み上げる
- ③主催事業を主体とする



## 2. ミッション ～震災の前よりももっと 優しくたくましい街に～

○ 佐渡芸術監督はミッションに対して、劇場は「街のみんなの心の広場に」、「こころのビタミンを届ける」との方針を示す。それは東日本大震災に対しても、熊本地震に対しても同様の姿勢で取り組んだ。

## 3. 全てはお客様のために (3類のお客様)

- ①チケットを購入し、来館するお客様
- ②施設を利用するお客様 (アーティスト含め)
- ③日頃来られない県民・市民、潜在お客様

○ 「日本一、世界一のホール・オーケストラではないかもしれないが、『日本一・世界一のお客様』をお迎えしたい」(佐渡裕芸術監督)

○ 音楽・舞台芸術など文化芸術を、また劇場を理解し、支えてくれる県民・市民が育まれ、劇場が持続的に活動できる環境を創ってきた。

○ <芸術文化センターのある街『にしきた』>が広く知られ、関西住みたいまちランキング1位になったように、街に劇場があることで地域の価値が高まることを実証してきた。

## 4. みんなの広場

- 劇場法に「新しい広場」と示される以前から広場としての劇場のあり方を模索してきた。

### (1) 幅広いニーズに応える舞台芸術の提供

- 「500円から60,000円まで」称し、県民の創造活動から世界一流の公演まで多彩で豊富なメニューを用意している。

### (2) 1日楽しめる劇場

- モーニング室内楽や午前・昼間に1時間の公演を行うなど新たな楽しみ方を提供する。

### (3) オペラ公演は西北地域の夏祭り

- 1年をかけて準備する佐渡監督オペラ公演に向けて多様な催事が行われ、前夜祭は施設前公園で「にしきた音頭」を監督含め踊る。

### (4) ソフトもハードもバリアフリー

- 障がいの有無に関わらず、0歳から参加できるなど多彩なプログラムが提供されている。



クリスマスイルミネーション



監督オペラ前夜祭

## 5. 人を育む施設・育むを支援するお客様

- 育む活動に、多くのお客様が観客として参加し、支援していく構造が創られている。

### (1) 兵庫芸術文化センター管弦楽団

- 35歳以下の演奏家が、世界からオーディションにより選抜され、3年間を上限に在団できる。アカデミー機能を持った楽団。これまで31か国から261人が参加している（2020年8月時点）。
- 施設内に専用練習施設もあり、楽団員には専用住宅が用意されている。
- 年9回の定期公演（3回公演）の他、多様な場での公演、体験・普及活動、医療・福祉・特別支援学校等での活動なども実施する。



### (2) スーパーキッズ・オーケストラ

- 全国からオーディションにより選ばれた子どもたち（小学生から高校生まで）の楽団。
- 音楽的才能だけでなく育成を目的に、復興祈念被災地訪問活動を実施、東北、熊本など36市町村61会場を訪問している（同上時点）。

### (3) 舞台芸術マネジメント人材育成

- 専門人材を擁していることから、他館スタッフや学生等に向けた講座の開催や講師派遣などを行っている。

## ② 「仙台を知り、磨き、仙台オリジナルの発信につなげる場」に参考となる事項

### 1. 震災復興祈念等の継続的な取組

- 災害被災地に対して、劇場及び楽団は以下の事業で継続的に関わることを明確にしている。
- 「兵庫県立芸術文化センターは、美しくなった街の復興のシンボルとして誕生しました。力強く、優しく、愛情があり、たくましい人の心がこの街を復興させたのです。この復興が、この街のオーケストラの奏でる音によって、世界に高らかに宣言されるのです」(佐渡監督)

- ①兵庫芸術文化センター管弦楽団による、阪神淡路大震災の周年式典等における式典・追悼演奏。
- ②楽団メンバーによる被災地アウトリーチ活動
- ③スーパーキッズ・オーケストラの継続的な東日本大震災被災地訪問演奏活動の実施
- ④プロデュースオペラ、楽団定期演奏会等への被災者招待等



H23 東日本大震災復興祈念のつどい



H28 こころのビタミンプロジェクトくまもと

### 2. 地域資源の発掘と活用

- 河内厚郎（演劇・文芸評論家）特別参与をプロデューサーとして、地域人材・題材を活用した、古典芸能、民俗芸能などを上演し、発信をしている。

#### ①阪神間文化ネットワーク

- 地域や地域人材を題材とした古典芸能等の公演

注：写真は文楽『一谷嫩軍記』の『熊谷陣屋』

撮影飯島隆



#### ②県民創作公演

- 地域資源を生かした、人形浄瑠璃、農村歌舞伎、オペラ、ミュージカル等の公演地域や地域人材を題材

注：写真は「ひょうごの民俗芸能祭」 撮影飯島隆





### 3. 地域ゆかりの若手人材の発掘

- 兵庫、関西ゆかりの新進気鋭の音楽家を事業に登用し、多様な客層の集客、裾野の拡大とともに、県民と音楽家との関係形成を図る。

#### (1) ワンコイン・コンサート

- 平日の午前・昼間に60分のコンサートを開催

#### (2) ワンコイン・コンサート NO.1アーティストアンコール・リサイタル

- 年間出演者の中からアンケート等で選出

#### (3) ワンコイン・コンサート出演者お披露目新春・顔見世コンサート

- 次年度出演予定者と新年を祝うコンサート

#### (4) ドリーム・J コンチェルト

- ワンコイン出演者と芸術文化センター管弦楽団によるスペシャル・コンサート



### 4. アウトリーチ活動

- 芸術文化センターから遠隔地域や日頃音楽に触れる機会の少ない医療機関、福祉施設、学校等に出向き、小編成アンサンブルによる有名なクラシック音楽やポップス、童謡など、バラエティに富んだプログラムを提供している。
- 開館10年目に県内41市町一巡を達成した。
- 2017年度より、県内の小学校・特別支援学校向けレクチャー・スタイルのプログラムを、2021年度から、県内中学・高校吹奏楽部を対象としたリモートレッスンなども実施。



学校アウトリーチ

#### ■音楽事業アドバイザー会議

- 新進気鋭の音楽家の人材発掘、出演者の審議のため、外部有識者による会議を組織している。



わくわくOnlineオーケストラ教室 妖精パックのオーケストラってなあ〜に?

### ③ 「ネットワークを形成し、市内外から人を呼び込む場」に参考となる事項

#### 1. 佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ・コンサート公演

- 佐渡裕芸術監督ならではの企画による制作・上演。毎年1年をかけ、逐次にプレ事業等を館のみならず県域全体で開催する。全8公演はほぼ完売となる。監督オペラは西北地区のみならず兵庫の恒例行事として定着している。

- ・半年前 専用ウェブサイトの立ち上げ
- ・3カ月前 ハイライトコンサート～ええとこどり～（県内数か所）
- ・2ヶ月前 ワンコイン・プレ・レクチャー（4回）
- ・1か月前 ポッケでの事業企画展示
- ・1か月前 公式関連グッズの販売
- ・直前 公開リハーサル
- ・直前 オペラ創作ワークショップ
- ・前日 前夜祭（西北活性化協議会主催）
- ・公演中 舞台写真公開
- ・公演後 ハイライト映像公開（15分程度）



注：2021年度「メリーウイドウ」ハイライト映像表紙  
メリーウイドウ専用ウェブサイトから

#### 2. 公共劇場等との連携による制作や公演

- 良質な作品制作実績のある公共劇場との連携による制作事業や公演を行う。  
（新国立劇場、東京芸術劇場、新潟市民芸術文化会館、神奈川芸術劇場、世田谷パブリックシアター、静岡県舞台芸術センター等）
- 東京一極集中から脱却して、地方から世界に通じる舞台芸術を創造することで、日本文化の振興を図る。

例) 新潟市民芸術文化会館専属舞踊団Noism（金森穰芸術監督）製作公演「劇的舞踊『ラ・バヤデール—幻の国』」（2014年）



Photo: Kishin Shinoyama

注：写真はりゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館、Noism HPから転載

- 自館での公演の他、KAAT神奈川芸術劇場、兵庫県立芸術文化センター、愛知県芸術劇場、静岡芸術劇場で公演を行う。

### 3. 芸文センター市民を創る

#### (先行予約会員数)

- 芸術文化センター先行予約会員制度（会費は無料）の会員数は60,549人（2022年3月31日現在）であり、全国47都道府県、県内全41市町に会員がいる。
- この集団を「芸術文化センター市民」と呼んでおり、いわゆる関係人口として位置づけ、重要な核となる集団と考えている。

#### (来場者数)

- コロナ禍の影響の少ない2019年から過去3カ年の年間公演入場者数は約50万人、その他来館者を含めると約80万人弱となる。

	公演入場者数	各種来館者を含む総数
2017年	537,021人	785,872人
2018年	529,050人	787,381人
2019年	471,241人	704,317人

注) この資料作成にあたっては、政策研究大学院大学「劇場活動にかかる評価リテラシー育成のための教育プログラムの開発」（ディレクター：垣内恵美子名誉教授）特別講座資料における、兵庫県立芸術文化センター総括アドバイザー（前副館長）藤村純一氏の論考「劇需要活動の自己評価～兵庫県立芸術文化センターの事例：結果をどう生かすか」、また、指定管理者である（公財）兵庫県芸術文化協会「令和3年度事業報告」及び施設ホームページを参考にさせていただいた。特に記載のない場合、2020年8月現在のデータである。

### 4. 地域連携・まちづくり

#### (1) 西北活性化協議会

- 芸術文化センターの開館を機に、センターを核とした地域全体の振興と活性化を目的に2006年4月1日に西北活性化協議会が設置された（構成：にしきた商店街、芸術文化センター、阪急西宮ガーデンズ）。
- 芸術文化センターと地元が一体となって様々なイベントを実施し、地域の賑わいを創出する。

#### (主なイベント)

- ①芸術監督オペラ公演「前夜祭」の開催
- ②LALALA にしきたミュージシャン・コンテスト  
～いつもこころに被災地を～



「にしきたを音楽の街に」をテーマに、2回の音源審査、さらに予選を勝ち抜いたアーティストが芸術文化センターでの本選に参加できる。

#### (2) 地元企業との連携

- 県内外からのお客様へのホスピタリティの向上の一環として、地元のタクシーの運転手、西宮北口駅の職員をホールに招き、相互研修会などを実施。